

所属地区・郡市内科医会

- 第1地区：横浜内科学会
第2地区：川崎市内科医会
第3地区：横須賀・三浦内科医会
逗葉内科医会
鎌倉市医師会内科医会
第4地区：藤沢市内科医会
茅ヶ崎医師会内科医会
平塚市医師会内科部会
中郡医師会内科医会
小田原内科医会
足柄上内科医会
秦野伊勢原医師会内科医会
第5地区：相模原市内科医会
大和市医師会内科医会
座間綾瀬医師会内科医会
海老名内科医会
厚木内科医会

入会方法

県内科医学会は郡市内科医会と同時にご入会いただいております。県への入会手続きは、郡市から入会届けをご提出いただく形になります。県内科医学会事務局（別記参照）にご連絡下さい。

会員種別

個人会員、病院会員、大学Ⅰ（横浜市大、北里大、東海大、聖マリアンナ医大）、大学Ⅱ（その他大学）、協賛会員

年会費

| | | |
|------|-----|----------|
| 個人会員 | | 8,000円 |
| 施設会員 | 病院 | 30,000円 |
| | 大学Ⅰ | 80,000円 |
| | 大学Ⅱ | 50,000円 |
| 協賛会員 | | 100,000円 |

入会申込書

神奈川県内科医学会事務局に所定の入会申込書がありますので、ご希望の方へ送付いたします。または下記のホームページよりダウンロードできます。

<http://www.kanagawamed.org/>

神奈川県内科医学会

検索



学会事務局

〒231-0037

横浜市中区富士見町 3-1 神奈川県総合医療会館 3F
神奈川県医師会内 神奈川県内科医学会
(電話 045-241-7000 Fax 045-241-1464)



神奈川県 内科医学会

2015年10月



神奈川県内科医学会 会長あいさつ



平成27年5月16日会長に就任しました宮川政昭です。日常診療に役立つ講演、臨床調査ならびに研究に取り組み、魅力ある地域医療の構築に役立つ神奈川県内科医学会を会員の皆様方とともに作り上げたいと願っております。

以下の内容を軸に会の活動を丁寧に取り

組んでいく所存です。会員各位のさらなる参加、協力を心からお願い申し上げます。

- (1) 診診・病診・病病・医患・患患とあらゆる形態の医療連携のネットワークの充実
- (2) 様々な臨床研究や調査を通して、実地臨床医という一般性の中に専門性を確立する
- (3) 医療を通して、地域社会への公益を軸とする県民への活動の推進
- (4) 地区内科医会との双方向性の連携・分担活動の創造
- (5) ICTによる会員相互ならびに県民に対する医療情報発信・広報活動機能の活用

| | |
|--------------|--------------------|
| 神奈川県内科医学会 会長 | 宮川 政昭 (横浜市) |
| 副会長 | 小野 容明 (横浜市) |
| | 出川 寿一 (川崎市) |
| | 沼田 裕一 (横須賀・三浦) |
| | 武田 浩 (秦野伊勢原) |
| | 金森 晃 (相模原市) |
| | 山本 晴章 (特任) |
| | 松田 隆秀 (聖マリアンナ医科大学) |

神奈川県内科医学会とは

本会は1967年2月19日に創設され、神奈川県医師会内の組織である神奈川医学会の最大の分科会で、県内の内科診療を行う医師が、全人的かつ包括的地域医療を目指し、相互連携・連帯を深め、神奈川県内の保険・医療・介護のレベル向上を目指して活動する団体です。会員の多くは、同時に全国組織である日本臨床内科医学会にも参加し、活動しています。

組織体制

| | |
|--------|-----------------------------|
| 総務企画部会 | 企画・庶務・渉外担当 |
| 財務部会 | 会計担当 |
| 情報広報部会 | ニュース(年2回)、 会報(年1回)、ICT担当 |
| 保険制度部会 | 保険診療・医療制度担当 |
| 学術部会 | 事業委員会担当 |

学術部会事業委員会

・糖尿病対策委員会

糖尿病患者さんの糖尿病合併症を少なくすることを目標にしています。3大合併症に対する対策班を設け、糖尿病神経障害対策班、糖尿病腎症対策班、また、眼科医会との合同協議会を中心に活動をしてきました。自主研究をたちあげDPP4阻害薬、SGLT2阻害薬をどのように有効に使用していくか検討しています。11月世界(神奈川)糖尿病Dayに共催し、市民向けの講演会ははじめ、マリンタワーのブルーライトアップも行っています。

・神奈川肝炎対策委員会

C型B型肝炎やNASHまたそれらに合併する肝硬変・肝がんを撲滅するため一般市民や非専門医を対象に啓発活動を行っています。(1)肝炎対策特別講演会を年2回開催、(2)肝臓病を考える病診連携の会～肝がん撲滅を目指して～を5地区持ち回り年2回開催、(3)ウイルス肝炎患者掘り起こし事業として市民公開講座や見逃し患者の発掘活動、(4)小冊子「これだけは知っておきたいC型肝炎・B型肝炎の知識」を配布し最新の知識をわかりやすく解説しています。

・認知症対策委員会

- (1) 「認知症を考える神奈川の会」の開催
認知症に関するあらゆるテーマ、早期診断、最新治療、介護、BPSDの対応、成年後見制など、著名な先生や地域で活躍されている方々に講演をしていただいております。
- (2) 認知症クリニック・カンファレンスの開催
実際の臨床に即した事例を提示し、参加者全員とディスカッションするという、日常診療に有意義な会です。
- (3) 臨床研究
現在、「生活習慣病と認知症」といったテーマで検討しています。

・神奈川高血圧・腎疾患対策委員会

高血圧・腎疾患対策委員会では、県下の高血圧患者の治療状況を把握するため2008年から高血圧臨床実態断面調査を続けています。また、CKD対策の普及には、かかりつけ医に通院中の患者のCKDの頻度や重症度の把握が必要と考え2013年に県下のかかりつけ医に通院中の非糖尿病患者のCKDの実態調査を行いました。今後この二つの調査研究を中心に会員の皆様へ有益な情報が発信出来るように活動を続けて行こうと考えております。

・呼吸器疾患対策委員会

「ぜんそく症状ゼロ プロジェクト」として、主たる活動をしています。気管支喘息とCOPDの治療薬の基本である吸入薬の効果を最大限に引き上げるために、「吸入指導のステップアップを目指す会」と共催して、吸入薬の普及と支援・指導の向上を目的に「吸入療法ステップアップセミナー」を開催しています。さらに、呼吸器疾患に対する最新の診療を学ぶために、神奈川県呼吸器疾患フォーラムなどの講演会を定期開催しています。

・神奈川禁煙・分煙推進委員会

- (1) 行政へ提言して2020オリンピック開催に向けた世界基準の禁煙フリー環境の形成
- (2) 禁煙医療に関する書物「今日からできるミニマム禁煙医療」市販版作成 (①禁煙外来を開設しよう ②禁煙外来における動機づけ面接

学術活動

医学会基本集会

| | |
|------------|----------|
| 定時総会・学術講演会 | (5月) |
| 臨床医学研修講座 | (9月～11月) |
| 新春学術講演会 | (1月) |
| 集談会 | (2月) |

③禁煙外来における認知行動療法)

- (3) 禁煙指導のための実践的なDVD・パワーポイントの作成
- (4) 禁煙外来における動機づけ面接法、認知行動療法の応用に関する講習会開催

- (5) タバコ対策に関係したエキスパートの養成(認知行動療法を含めた)のための講習会開催
- (6) かながわ卒煙塾への講師派遣

・医薬品評価検討委員会

医薬品評価検討委員会は、ジェネリック医薬品を中心に情報提供を進める活動を行っています。ご存じのように、ジェネリック医薬品は国が推奨しており、その使用目標を20年度までに現在の60%から80%へ引き上げることが明示されました。このような状況下で会員の先生がたに正しい情報を伝える必要性が、ますます高まっています。もし、興味のある先生がいましたらぜひ委員会の一員になっていただきお知恵を拝借できればと思っています。

・在宅医療委員会

在宅医療委員会は、在宅医療の担い手を増やす事を目標としています。そのために、在宅医療を推進しようと考えている医師や多職種の皆様と、問題点の検討や情報を共有することが大切であると考えており、年1回の在宅医療研究会は県内各地を移動しながら開催しています。内科医学会は学術的に深めていく使命をもっていますが、在宅医療の領域は社会的役割が大きく、神奈川県医師会等とも連携しながら歩んでいきたいと思っております。

・健康長寿社会を目指す委員会

世界に類を見ない猛スピードで進む少子・高齢の現状は、今や本県でも2013年には超高齢・少子社会となり、さまざまな社会的困難の最中にある。この現状の中で本委員会は下記を事業目的としております。

- (1) 高齢～超高齢者向けの心身の社会健康保持テーマとした市民対象啓蒙・啓発事業
- (2) 末期医療の在り方(死の受容)への講演・討論会を医療者、市民、宗教者、学識経験者も交えて、1と合わせて域は単独で行います。
- (3) テンポの早い高齢化進行に見合った医療、保健、福祉制度の見直し提言を行います。

・心臓血管病対策委員会

県内の循環器診療向上を目的にし、多くの患者様に質の高い医療を提供する事を目標としました。専門医においては、臨床試験への参加(平成26年度から「心房細動における抗凝固療法の有効性安全性実態調査(ASSAF-K)」、研究テーマへの参加・協力(心筋梗塞および救急治療に関する神奈川県循環器救急レジストリー、心房細動・閉塞性動脈硬化症・肺高血圧症のアンケート調査)など、新たな知見の創造を図りたいです。

・メディカルコミュニケーション委員会

現在は患者の多様な価値に基づく医療(Value Based Medicine)の時代となりました。多疾患内在の患者の治療において、個別化へ対応する為の患者個々の生活、考え方等、背景をあぶり出し、医療関係者一体となった医療を提供するためには、医師を中心とした医療チームが総力戦で望むことが肝要です。医療の変遷と共にコミュニケーションが重要となってきました。医師-患者関係のみならず医療者間のより良いコミュニケーションに関して学んでいきたいと考えています。